

職域及び大学における歯科健診受診勧奨事業	
北多摩北部保健医療圏	
実施年度	開始 令和 6 年度 終了(予定) 令和 7 年度
背景	<p>歯科疾患は、全身疾患と関連していることが報告されており、歯科疾患の代表であるう蝕や歯周病は、発症、進行してしまうことで歯を喪失するリスクが高まり、食事や会話をする等の日常生活にも支障をきたしてしまう。</p> <p>小、中、高等学校までは学校保健安全法により義務付けられていた歯科健診が卒業後は無くなることに加え、主に進学や就職、結婚等生活環境の変化により歯や口腔の健康への関心が薄れ、定期的な歯科受診の機会が減ってしまうことが考えられる。</p> <p>令和6年度より、健康増進法に基づき区市町村で実施する歯周病検診の対象者が、40歳以上から20歳と30歳を加え拡大されたことから、切れ目のない歯科健診の体制が整えられつつある。</p> <p>生涯にわたり歯や口腔の健康を維持、増進するためには、早期からの定期的な歯科受診が重要である。また、歯科受診をすることで、口腔疾患の早期発見、早期治療につながることから、若年層からの普及啓発が重要である。</p>
目標	小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等の口腔の健康に関する意識の向上を図ることで歯科健診受診を促す。
事業内容	<p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学識経験者や社会歯科学会理事長、小平市歯科医師会会長、小平商工会事務局長、小平市内の大学2校の健康管理を担当している職員の協力を得て7月に検討会議を開催した。その中で、口腔状態の満足度や定期的な歯科受診の状況等実態を把握するため、それぞれの立場より意見を出し合い、アンケート調査の内容や調査方法等を検討した。 市内大学の学生や教職員、小平商工会関係者等に対し、アンケート調査を行った。また、アンケートの回収率が高まるよう、大学の健康イベントや小平商工会が実施する健康診断等に合わせて実施した。大学の学生と教職員に対しては、アンケート調査とともに小平市歯科医師会による歯科相談を実施した。 口腔の健康に関する普及啓発グッズ等を作成した。 調査結果の分析、効果的な普及啓発ツールの検討を行った。 <p>【令和7年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等に対し、定期的な歯科受診に関する効果的な普及啓発を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 普及啓発のためのキャラクターの作成 歯科受診に関するショート動画の作成 <ul style="list-style-type: none"> →動画視聴後、歯科受診に関する意識の変化等についてアンケート調査を行うことで、効果検証を行う。 ポスターやステッカー等の作成 <ul style="list-style-type: none"> →大学校内や公共施設、コミュニティバス等各所で掲示する。 検討会議を年度初めと終わりに2回開催し、事業評価を行う。
評価	<p>小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等に対し、口腔状態の満足度や定期的な歯科受診の状況等に関するアンケート調査を行い、実態を把握した。その結果、定期的な歯科受診を促進するための効果的な普及啓発ツールの検討につなげることができた。</p> <p>また、大学の学生や教職員に対しては、口腔内の悩みやトラブル等について同市歯科医師会により相談を受け付け、問題解決を図ることができた。</p>
問合せ先	<p>多摩小平保健所 管理課 保健医療担当</p> <p>電話 042-450-3111</p> <p>ファクシミリ 042-450-3261</p> <p>E-mail S1153504@section.metro.tokyo.jp</p>

1 事業実施までの経緯

歯科疾患は、全身疾患と関連していることが報告されており、口腔の健康状態は全身の健康状態と密接に関係している。また、歯科疾患の代表であるう蝕や歯周病は、発症、進行してしまうことで歯を喪失するリスクが高まり、食事や会話をする等の日常生活にも支障をきたしてしまう。

歯科健診は、母子保健法や学校保健法等により高等学校を卒業するまでは義務付けているが、高等学校卒業後は、本人の自主性に任せられている。加えて、進学や就職、結婚等生活環境の変化に伴い、かかりつけ歯科への通院が困難になる等の要因で、定期的な歯科受診の機会が減少する可能性が考えられる。

一方で、令和6年度より、健康増進法に基づき区市町村で実施する歯周病検診の対象者が、40歳以上から20歳と30歳を加え拡大されたことから、いわゆる「国民皆歯科健診」実現に向けて、切れ目のない歯科健診の体制が整いつつある。生涯にわたり歯や口腔の健康を維持、増進するためには、早期からかかりつけ歯科医を有し、定期的な歯科受診等を習慣づけ、予防だけでなく口腔疾患の早期発見、早期治療に努めることが重要で、そのためには若年層からの普及啓発が重要である。

※東京都歯科保健推進プラン「いい歯東京」の4本の柱の1つである「ライフステージに応じた歯と口の健康づくりの推進」において、特に青年期（18歳～30歳）はライフスタイルの変化によりむし歯（う蝕）や歯周病のリスクが高まる傾向にあり、学校や職場等、様々な対象へのアプローチにより普及啓発を実施することとしている。

2 事業目標

口腔の健康は、全身の健康と密接に関わりがある。そのため、早期から定期的に歯科受診をし、健診を受けることで、口腔疾患の早期発見、早期治療につながる。多摩小平保健所管内5市（小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市）の中で、大学数が最も多い小平市を選定、その内2校の大学と小平商工会に協力を依頼し、下記の目標を掲げた。

『小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等の口腔の健康に関する意識の向上を図る。』

3 令和6年度事業内容

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		検討会議の委員 選任、委嘱			小平商工会関係者等に対する アンケート調査の実施			アンケート調査結果の分析、課題の抽出 令和7年度に行う普及啓発ツールの検討			
			7月30日 検討会議 開催		大学生、教職員等に 対する アンケート調査、 歯科相談の実施						

(1) 「歯科健診受診促進のための検討会議」の開催

関係機関や市と連携、協力した取り組みを行うために、検討会議を設置し、学識経験者、社会歯科学会理事長（管内歯科医師会会長）、小平市歯科医師会会長、小平商工会事務局長、小平市内の大学で健康管理を担当している職員2名、小平市健康課長、多摩小平保健所副所長を委員とした。

会議では、主にアンケート調査の内容や効果的な調査方法等について検討した。



検討会議の様子

(2) アンケート調査及び歯科相談の実施

【アンケート調査】

アンケート調査を行うことにより、口腔状態の満足度や定期的な歯科受診の状況等実態を把握した。調査票を作成するにあたり「令和4年度 東京都青年期実態調査」を参考とした。

- ・対象者：小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等
- ・実施時期：事前に担当者と協議し、対象者が十分に集まる下記の時期に実施した。小平商工会関係者等へは、商工会が実施する健康診断、



アンケート調査会場の様子

小平市産業まつりの説明会や当日に実施。(令和6年8月下旬～11月上旬)小平市内の大学2校(学生、教職員等)へは、大学が実施する健康イベント等に合わせて実施。(同年9月中旬～10月中旬)

- ・調査方法：オンラインフォーム(Logo フォーム)上に入力またはアンケート用紙に記入とした。アンケートの受付や調査協力の声掛けには、所内管理課や市町村連携課の応援を得て実施。なお、大学においては、学内のポータルサイトにアンケート票を掲示し、調査当日だけでなく事前にも回答できるようにした。

【歯科相談】

小平市歯科医師会による歯科相談を大学の学生、教職員(アンケート調査の対象と同一校)の希望者に対し、実施した。

○相談者数：計26名

○主な相談内容：・う蝕、歯周病について ・治療中の歯について ・歯磨きの方法
・顎関節症について ・親知らずについて

(3) 口腔の健康に関する普及啓発グッズ等の作成

アンケート調査の際に、歯科健診の受診を促進するための普及啓発グッズを作成した。また、のぼり旗を作成し、調査の際に使用することで啓発活動の効果を高めた。

○普及啓発グッズ



トートバック



コンパクトミラー



付箋



ポーチ

4 アンケート調査結果

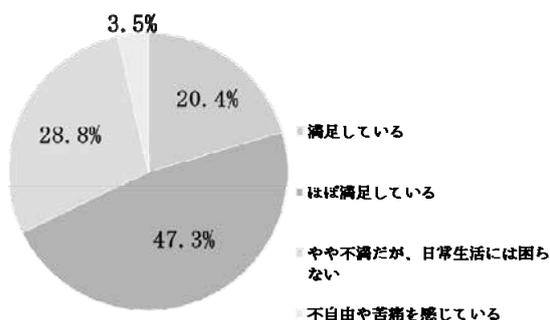
【アンケート調査の回答(一部抜粋)】 《大学生》

小平市内の大学2校に在籍する全学生計3648名に対し、375名より回答を得られた。(回答率：10.3%)その内回答の不備を除く有効回答は、372件であった。

年齢：平均年齢 20.5歳(min 18歳、max 56歳)

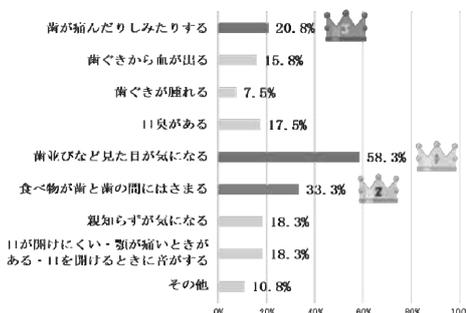
性別：男性 30.9%、女性 66.4%、回答したくない 2.7%

○ご自身の歯と口の状況について、どのように感じていますか。



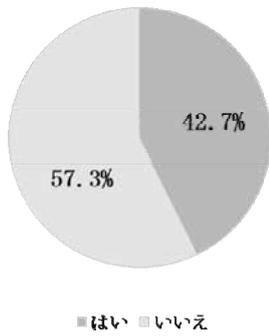
歯や口の状況について 67.7%の者が「満足している」、「ほぼ満足している」と回答した。

○(左記の質問で「やや不満だが、日常生活には困らない」、「不自由や苦痛を感じている」と回答した者に対して)ご自身の歯と口の状況について、どのようなことに満足していないですか。(複数回答可)



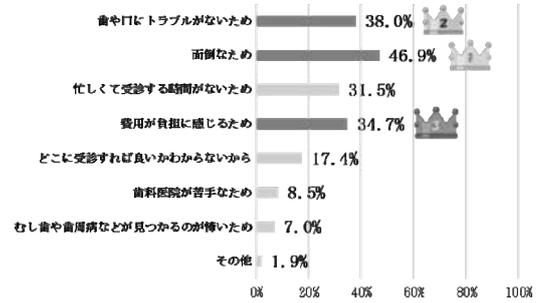
満足していない理由として「歯並びなど見た目が気になる」、「歯が痛んだりしみたりする」、「食べ物が歯と歯の間にはさまる」が上位3つに挙げられた

○定期的に歯科医院を受診していますか。



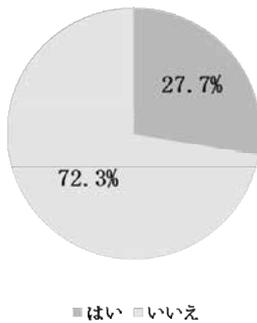
定期的に歯科医院を受診している者は、42.7%であった。

○(左記質問で「いいえ」と回答した者に対して) そのように回答した理由を教えてください。(複数回答可)



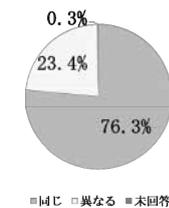
定期受診しない理由として、「面倒なため」、「歯や口にトラブルがないため」、「費用が負担に感じるため」が挙げられた。

○お住いの市区町村が歯科健診を行っていることをご存じですか。

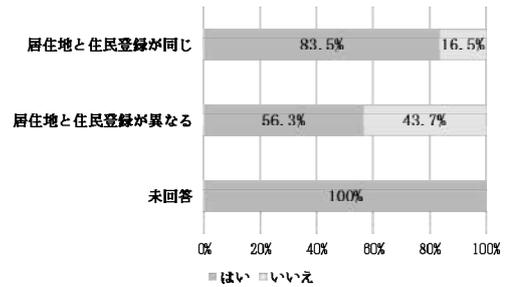


自治体が行っている歯科健診を知っている者は、27.7%であった。

【参考】
居住地と住所登録(住民票)について

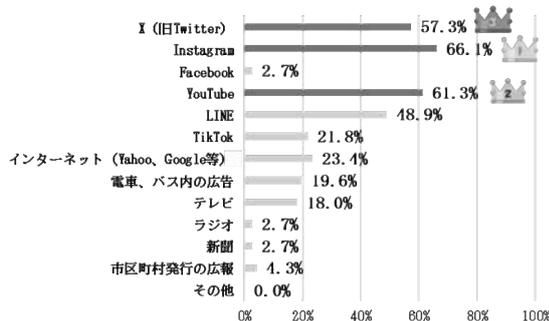


○歯や口のトラブルが起きた時や、歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にありますか。



居住地と住民登録が異なると回答した者の中でトラブルが起きた時や歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にない者は、43.7%であった。

○よくご覧になる広告媒体を教えてください。(複数回答可)



よく目にする広告媒体は、「Instagram」、「YouTube」、「X (旧 Twitter)」が挙げられた。一方「電車、バス内の広告」を挙げる者も一定数存在した。

《職域》

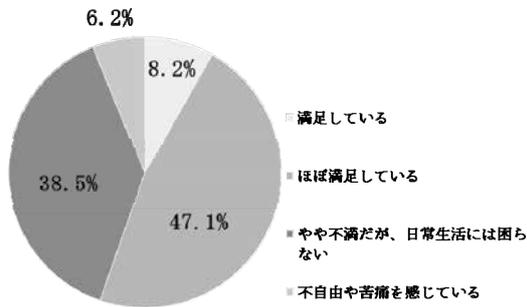
市内大学2校に勤務する全教職員計696名に対し、132名より回答を得られた。(回答率：19.0%) 小平商工会関係者(健康診断受診者、小平市産業まつり関係者)211名に対し、164名より回答を得られた。(回答率：77.7%)

その内回答の不備を除く有効回答は、市内大学2校に勤務する教職員は、132件、小平商工会関係者は、159件の計291件であった。

年齢：平均年齢 50.6歳 (min 21歳、max 86歳)

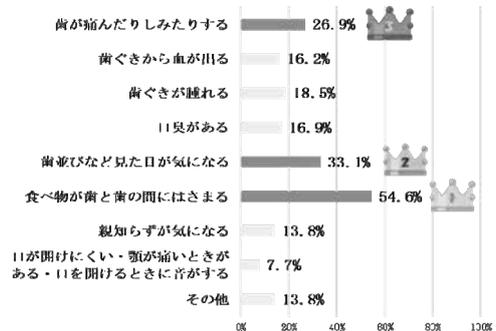
性別：男性 57.0%、女性 41.9%、回答したくない 1.0%

○ご自身の歯と口の状況について、どのように感じていますか。



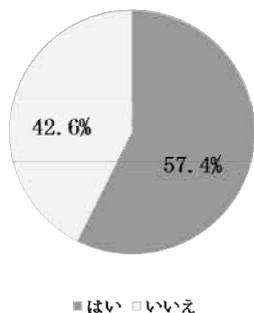
歯や口の状況について 55.3%の者が「満足している」、「ほぼ満足している」と回答した。

○（左記の質問で「やや不満だが、日常生活には困らない」、「不自由や苦痛を感じている」と回答した者に対して）ご自身の歯と口の状況について、どのようなことに満足していないですか。（複数回答可）



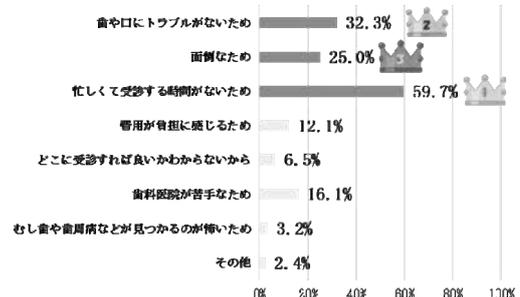
満足していない理由として「食べ物が歯と歯の間にはさまる」、「歯並びなど見た目が気になる」、「歯が痛んだりしみたりする」が上位3つに挙げられた

○定期的に歯科医院を受診していますか。



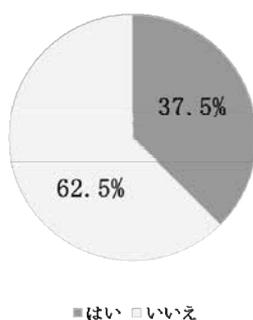
定期的に歯科医院を受診している者は、57.4%であった。

○（左記質問で「いいえ」と回答した者に対して）そのように回答した理由を教えてください。（複数回答可）



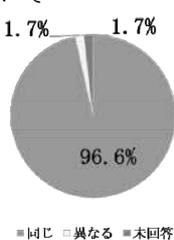
定期受診しない理由として、「忙しくて受診する時間がないため」、「歯や口にトラブルがないため」、「面倒なため」が挙げられた。

○お住いの市区町村が歯科健診を行っていることをご存じですか。

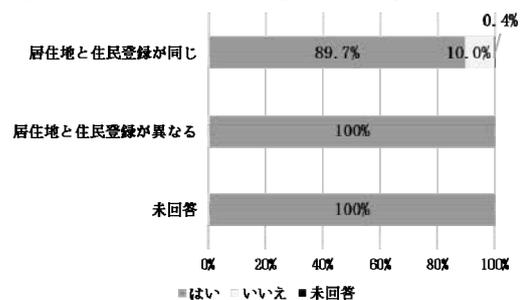


自治体が行っている歯科健診を知っている者は、37.5%であった。

【参考】居住地と住所登録（住民票）について

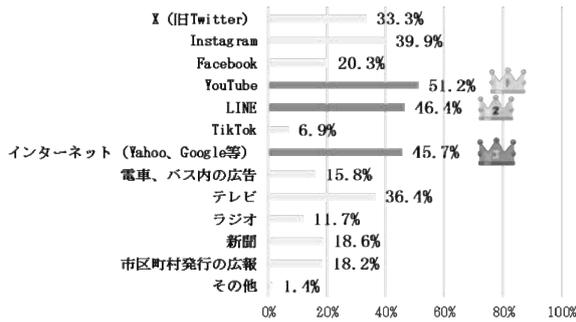


○歯や口のトラブルが起きた時や、歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にありますか。



居住地と住民登録が異なると回答した者の中でトラブルが起きた時や歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にない者は、0%であった。

○よくご覧になる広告媒体を教えてください。(複数回答可)



よく目にする広告媒体は、「Instagram」、「YouTube」、「X (旧 Twitter)」が挙げられた。一方「電車、バス内の広告」を挙げる者も一定数存在した。

《アンケート調査結果のまとめと考察》

歯や口腔の状況について、職域では4割以上、大学生では3割以上の者が「やや不満だが、日常生活には困らない」、「不自由や苦痛を感じている」と回答した。その理由として、歯周病の症状の一つである「食べ物が歯と歯の間にはさまる」ことが多く挙げられた。歯周病やう蝕の初期段階では、自覚症状が乏しく、症状が現れた時には、すでに進行している可能性も高い。治療が必要になると、通院回数や治療期間が長くかかったり、治療費が多くかかることも考えられるため、定期受診をし、自身の口腔内の状態を把握し、予防や早期治療を行っていくことが重要となる。このことから、かかりつけ歯科医をもち定期的に受診することの重要性について普及啓発する必要があると考える。また、すでに受診をしている者に対しては、定期受診の継続を促すことも重要であると考え。

自治体を実施する歯科健診を知っている者は、大学生では約3割、職域では約4割であった。大学生では、現在の居住地に住所登録をしていない者は、23.4%おり、その中で歯や口のトラブルが起きた時や歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にない者は、43.7%だった。自治体を実施する歯科健診は、歯科医院を受診するきっかけとなり、かかりつけ歯科医を有していない者にとっては、新たにかかりつけ歯科医を見つけることができる可能性もある。大学生では、特に歯科受診を妨げる原因として「費用が負担に感じるため」を挙げる者も多くいたことから、無料ないし手ごろな値段で受けることができる自治体を実施する歯科健診は、受診のきっかけになると考える。そのため、かかりつけ歯科医をもち、定期受診の重要性を普及啓発する際に自治体を実施する歯科健診について情報提供することは一つの有効な方法であると考え。

5 評価

小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等の口腔状態の満足度や定期的な歯科受診の状況等に関するアンケート調査を行い、実態を把握した。

アンケート調査の結果から、令和7年度に行う定期的な歯科受診を促進するための効果的な普及啓発ツールの検討につなげることができた。

また、アンケート調査の際、大学の学生や教職員の希望者に対し、同市歯科医師会により相談を受け付けることにより、口腔内の悩みやトラブル等の問題解決を図ることができた。

令和7年度の計画及び今後の展開

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	5月 第1回 検討会 議開催	普及啓発ツールの作成					普及啓発				3月 第2回 検討会 議開催

令和7年度は、定期的な歯科受診促進のための効果的な普及啓発に向け、検討会議の委員と意見交換を行いながらツール案を作成、保健所ホームページや保健所展示ギャラリー等も活用しながら、啓発活動を行う。

小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等の口腔の健康に関する意識の向上を図ることで、口腔の健康、全身の健康さらにはQOLの向上に寄与する。